

学会通信 (一九九九年七月～九月)

一、学会活動

現代中国学会主催講演会

七月一日 「五四新文化運動と魯迅」陳漱渝(北京魯迅博物館副館長)

九月二九日 「海峡兩岸の中国近代研究潮流」張海鵬(中国社会科学

院近代史研究所所長)

二、学会員活動

今泉潤太郎

「新語から見る中国の社会と人の暮らし」(フレンズ・TOHO 主催講演、一〇月一三日)

内山俊彦

「荀子」(講談社学術文庫、九月)

黄英哲

「歴史の中の中国政治——近代と現代」(共著、勁草書房、七月)

「日本統治期台湾文学——台湾人作家作品集」(共編、緑蔭書房、七月)

「台湾文化再構築」1945～1947の光と影——魯迅思想受容の行方」(創土社、九月)

高明潔

「中国少数民族の教育と貧困問題をめぐって」(関西日中交流懇談会主催講演、七月三日)

張琢

「莘莘学子拉動產業鍵」(「人民日報」市場報、九月一日)

三好章

「新四軍與華中社会——關於江南抗日義勇軍和地方武装」(明清以来中国社会国際學術検討会、八月三二日～九月二日)

「日本的中国近代史研究——以『日中戦争』時期為中心」(記念武漢抗戰暨中山艦遇難六〇周年国際學術討論會論文集)九月

中国21 Vol.10 予告 (〇〇年8月刊行予定)

特集 ● 現代中国映画研究

「二為」の方向、「双百」の方針のもとに独自の発展を遂げてきた中国映画界が、改革開放以後、大きな転換期を迎えている。映画製作においては、膨大な娯楽映画作品群を生み出し、八〇年代後半には、第五世代監督による実験映画の台頭を契機に、第三世代、第四世代監督作品とともに中国映画の黄金期を創出した。一方、映画事業においては、国家映画配給体制が取り消され、中国映画は世界の映画市場に本格的に参入した。

ハリウッド映画・台湾映画・香港映画、テレビ事業の影響などを受けながら、「主旋律」と「多様化」の二つの狭間の中で変貌を遂げる現代中国映画の動向を、作品論・監督論、映画史、比較文化、映画産業論などの各フィールドから検討する。

【インタビュー】第四世代、第五世代監督——「主旋律」と「多様化」のうねりの中で——「謝飛・詹相持・滕文驥・李少紅・路海波」
【論説】四方田犬彦「第五世代の変容」／白井啓介「現代中国映画における都市生活者の描写」／大塚秀明「改革開放と中国農村映画」／垂水千恵「侯孝賢・戯夢人生」再論／焦雄屏「現代台湾映画」／藤森猛「現代中国アニメ映画の変遷」【特別寄稿】佐藤忠男「兩岸電影半世紀——謝晋・李行展」での私の報告 【天南地北】高野悦子「中国映画と岩波ホールのご縁」／朱天文「侯孝賢の映画を見て」／菊地涼子「アメリカで中国映画を見る」

【資料】現代中国理解のためのキーワード 500 (文学・演劇・映画用語)